５月は、「花と緑の栽培、自然観察や公園で実施するプログラムづくり」をテーマに１５日（水）～１７日（金）の３日間で、田淵先生の宿根草花壇の管理実習、嶽山先生の昆虫を用いた自然観察、林先生の公園の利活用プログラムづくりを行いました。

 嶽山先生の昆虫を用いた自然観察では、昆虫の誘引方法、採取方法、標本づくりの講義の後、フィールドに出て実際に昆虫採集を行い、標本を作製しました。

林先生の公園の利活用プログラムづくりでは、公園や森、自然などの楽しさ、驚きを伝えるインタープリテーションについて説明を受けた後、２グループに分かれ、各人７分ずつの持ち時間で実際にインタープリテーションを行いました。７分という短い時間のなかで、柏餅ならぬサルトリイバラ餅、クリの花やヘクソカズラなどの臭い植物、イタドリの特徴や食べ方、植木鉢の下などに潜む日陰の生物など様々な視点で、楽しさと驚きを伝えていました。